

## 令和7年度 学校評価アンケート集計結果からの考察

学校評価アンケートの集計結果を次の方法で分析しました。分析の結果、分かったことの中から主なものを以下に記載します。

方法：肯定的な回答（「そう思う」「だいたいそう思う」）の人数の割合を昨年度の割合と比較する。

### ○「1 児童は、元気よく学校へ通っている」「8 学校は、いじめや不登校の対応に努めている」「23 先生は話を聞いてくれる」

「1 児童は、元気よく学校へ通っている」では、保護者93.9%、児童96.3%、教職員100%と肯定的な回答が多く、大変うれしく思います。ただ、昨年（保護者95.8%、児童99.1%）と比較すると、保護者・児童ともに2～3%程度低下しています。また、「8 学校は、いじめや不登校の対応に努めている」では、保護者87.1%、児童75.7%、教職員100%ですが、24.4%の児童が否定的な回答をしていることが心配されます。

学校では、毎月2回「心の健康観察・相談ポスト」を実施し、児童たちの日常の心配や悩みを早期に発見し、解決するよう努めています。加えて、1年に4回「学校生活アンケート」と「QUアンケート」を実施し、いじめの早期発見早期対応に努めています。特に、「学校生活アンケート」実施後は、担任教員がアンケート結果についてそれぞれの児童と1対1で話す教育相談の時間を設けています。心配な回答が得られた場合は、児童から詳しい話を聞き、保護者の方にも連絡し、早急に解決できるよう努めています。ただ、さまざまな対応策は実施しているものの、まだまだ不十分な点があるかもしれません。「23 先生は話を聞いてくれる」で、3.7%の否定的な回答をした児童たちの声を聞き逃さないように努力することが大切だと考えます。

今後も、児童の毎日の生活の様子に気を配り、変化の兆しが見られる場合には、話を聞いたり保護者の方に連絡したりするなどして、いじめの未然防止・早期発見・早期対応及び不登校への対応に努めます。ご家庭でも気づかれたことがありましたら学校へご連絡ください。

### ○「4 先生は、分かりやすい授業に努めている」「5 児童は、学習の基礎基本が身についている」

「4 先生は、分かりやすい授業に努めている」では、保護者93.3%、児童97.2%、教職員100%と肯定的な回答が90%を超える結果となりました。特に、保護者は、昨年度（91.1%）と比較して2%程度上昇しました。「5 児童は、学習の基礎基本が身についている」では、保護者82.3%、児童94.4%、教職員80%で、昨年度（保護者73.6%、児童94.4%、教職員73.4%）と比べ保護者8.7%、教職員6.6%上昇しました。

タブレット端末の活用推進が始まり、本年度で3年が過ぎました。学習内容により、タブレット端末を使用した方がよいのか、教科書やノートを使用した方がよいのか判断が難しいこともありますが、教職員がこれまでの経験を経て、ICTと教科書・ノートなどをうまく組み合わせて指導に活用できるようになってきたと考えています。タブレット端末を使用してデジタル教科書の内容を効果的に示しながら児童の意欲を引き出し、従来のようにノートやプリントに書いて児童が自分の考えを進めるスタイルの広がりが見られます。引き続き、ICTと教科書やノートなどの効果的な活用を心がけ、児童たちが、「わかった、できるようになった」と実感できる授業を目指します。

### ○「16 児童は、自分に自信をもっている」「24 先生はほめてくれる」「7 児童の交友関係は良好である」

「16 児童は、自分に自信をもっている」では、保護者69.1%、児童87.9%、教職員86.6%と保護者と児童・教職員の間で17%程度の差異が見られましたが、保護者は昨年度（65.6%）と比較して4%程度上昇しました。「24 先生はほめてくれる」では、児童93.4%、教職員100%と肯定的な回答が高い割合をしめました。

本校では、「ほめて児童の自己肯定感を高めること」「友達と互いによいところを認め合える学級集団・学校集団をつくること」を目標とし、教育活動に取り組んでいます。互いによいところを認め合える集団作りが、「7 児童の良好な交友関係」にもつながると考えています。引き続き、実践していきたいと考えます。

### ○「15 児童は、学校のできごとをよく話している」「20 学校は、教育活動の公開に努めている」

「15 児童は、学校のできごとをよく話している」では、保護者66.4%、児童82.2%と、昨年度に比べ双方3%程度低下しました。「20 学校は、教育活動の公開に努めている」では、保護者87.6%、教職員93.8%と、昨年度に比べ双方6%程度低下しました。学校は、児童の日々の学校生活について継続して発信していきたいと考えます。ご家庭での話題づくりに、ホームページや学校だよりなどに掲載されている記事を活用していただけるとうれしく思います。